

# 古文書整理 地域資源としての古文書を考える

静岡文化芸術大学 文化政策学部 水谷悟ゼミ・西田かほるゼミ

指導教員：水谷悟 西田かほる

参加学生：加藤那純 相馬雅人 野口琴葉 清水夢芽 谷口あゆ 林晴海 前田唯那  
山村奈央 榎田萌華 小川果南 鈴木稜歌 数原愛理 近保音羽 寺沢朋恵  
林奈穂 毛受海斗 山下遼太郎 山村優菜 和田 葵

## 1 要約

本研究は静岡県榛原郡川根本町千頭の殿岡家が所蔵する8,000点余にのぼる文書の整理・調査を行うものである。殿岡家文書は、殿岡嗽石（1851—1933）によって蓄積された文書群を主とする。嗽石は千頭村戸長・榛原郡会議員・静岡県会議員を歴任し、金原明善とともに植林事業を行ったほか、山林経営、茶業組合、大井川鐵道の敷設、地域郵便局の開設・運営に関わりながら地域青年の指導に努めた名望家であった。本文書群は家史料としての価値を超え、当該地域の歴史・産業・生活を考える上で重要な「公文書」的性格を有している。本文書群を調査整理し広く利用できる状態にすることで、古文書を文化遺産として後代に伝えるとともに、地域の方々と連携し古文書に記された情報や知見を地域資源として活用してもらうための基礎をつくる。

## 2 研究の目的

川根本町千頭の殿岡家が所蔵する古文書の調査を行い、概要目録を作成することで文書の散逸を防ぎ、地域資源としての古文書の活用方法を探ることを目的とする。

## 3 研究の内容

現在殿岡家には、茶箱類41箱とタンスなどに収納された未整理文書が約8,000点余ある。それらの文書を誰でもが利用できるように、目録を作成する。目録作成にあたっては、収納単位ごとに簡単な保管情報の記録を作成した上で、文書を1点ごとに中性紙封筒へ収納する。目録は、内容や年月日・作成者などの情報を読み取って用紙に記入し、その後、目録の情報をデータ入力し、検索が可能な形にする。

また、殿岡家には『本川根町史』の編纂時に調査された文書（3,000点余）も保管されているが、現物と目録を対照することができないなど、現状では利用が困難である。そのため既整理分の文書についても活用の方法を探る。

文書の調査自体が研究活動であるものの、調査



をすすめる中で、殿岡家文書の分析をおこなう。研究は調査中のミーティングを基本としつつ、各人が興味を持った文書の翻刻や報告を行う機会を設ける。

## 4 研究の成果

### (1) 当初の計画

文書群の規模が大きいため、長期間にわたる調査が必要となる。3年目にあたる今回も未整理分の史料の目録を順次作成するとともに、各々が興味を持った史料の読解をすすめることにより調査の充実をはかる。新型コロナウイルス感染症予防のため、調査は史料を大学に借り出し、土日を利用して複数回おこなう。新型コロナウイルス感染症の状況によるが、川根本町でのフィールドワークにもとりくむほか、中学生や高校生が直接古文書に触れて地域の歴史を学ぶ機会を設けるとともに、調査成果の地域還元をはかる。

### (2) 実際の内容

B：一部修正

文書調査は新型コロナウイルス防止の観点から、現地での合宿調査は行わず、大学に史料を借り出して行った。調査は6月19日・20日、7月3日・4日、12月4日・5日の計6日間、静岡文化芸術大学自由創造工房で行った。この他、10月以降、ゼミの終了後に補充調査を行っている。未整理文書は収納場所・収納単位ごとに番号を付しており（A-1～5、B-1～41、C-1）、今年度はB-13～B-15の調査を実施した。現地調査を実施できなかったため、11月21日に文書群の状況を理解するために現地に赴き、殿岡家のほか川根本町資料館やまびこを見学した。

### (3) 実績・成果と課題

今回の調査で作成した目録は、1,080点余であった。各単位の点数など下記の通りである。なお、文書は袋に入っていたり束ねられたりしているため、枝番号まで含めると（ ）内の点数となる。

B-13-1～68（197点） 明治～大正期 殿岡嗽石書画、材木・茶・繭など賞状 等

B-14-1～33（174点） 昭和2年：上川根村女子青年団関係  
大正7年：大井川川狩問題 等

B-15-1～243（701点） 天保～明治：借用証文、書簡、茶業組合証 等 \*整理途中

B-18-1～5（5点） 判子

B-19（1点） 墨ほか



B-13 文書収納状況



B-14・B-15 文書収納状況

今年度の調査の詳細および文書内容などについては、3月中に学生、教員、外部協力者を合わせ、学内で報告会を開催する。

#### (4) 今後の改善点や対策

文書調査についてはほぼ計画通りに実行できたが、新型コロナウイルス感染症拡大状況を受け、川根本町の中学生や高校生が直接古文書に触れて地域の歴史を学ぶ機会を設けることはできなかった。新型コロナウイルス感染症の状況によるが、リモートなどの方法も検討しつつ、所蔵者や地域の方々との交流を深める方策を考える。

### 5 地域への提言

川根本町においては、『本川根町史』作成時の調査目録が整備されつつあるので、殿岡家文書に限らず、地域の古文書の把握や活用が進んでいくものと思われる。古文書を文化資源として積極的に活用できるよう、一緒に考えさせていただきたい。

### 6 地域からの評価

本年度も現地での調査はできませんでしたが、大学の校内にて調査していただき、今年度は令和4年1月時点で新たに1000点余りの整理を終えることができたということで、昨年より更に調査数を重ねることができ、感謝しております。

今回の調査によって、鉄道や林業の古文書だけでなく、神仏崇敬に関する精神的側面、殿岡嗽石の地域の名望家としての一面が少し明らかになったと思います。以前の「とにかくいろいろな資料がある」という状態から、どのようなジャンルの資料があるのかが整理されてきており、今後活用の方向性を決めるにあたり、必要な情報が出そろってきたのではないかと思います。

(川根本町教育委員会社会教育課)